

VMware vRealize Automation 6.2 リリース ノート

最終更新日 2017年09月22日

vRealize Automation 6.2 | 2014 年 12 月 9 日 | ビルド 2330392

VMware Identity Appliance 6.2 | 2014 年 12 月 9 日 | ビルド 2300183

vRealize Automation Application Services 6.2 | 2014 年 12 月 9 日 | ビルド 2299597

更新日: 2015 年 8 月 20 日

これらのリリース ノートへの追加や更新を確認してください。

リリース ノートの概要

本リリース ノートでは、次のトピックについて説明します。

- [新機能](#)
- [システム要件とインストール](#)
- [ドキュメント](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

新機能

サポートの強化

- 監査用のログ機能とイベント追跡が改善されました。
- IaaS を含むすべてのクラスタ ログの統合されたログ収集が追加されました。
- テレメトリのサポートが追加されました。
- vRealize Automation 管理コンソールにおける証明書の検証と簡略化が追加されました。

vRealize Operations Manager との統合

- vRealize Operations Manager からのデータに基づく再利用の推奨が提供されます。
- vRealize Operations Manager からの健全性バッジが表示されます。

API の改善と新しい CLI ツール

- vRealize Automation REST API に**予約管理**のサポートが追加されました。この新しい API 機能によって、予約の作成、更新、削除、およびコンピュー ト リソース使用量など予約に関する情報の表示が可能になります。サポートされている予約タイプは、vSphere、vCloud Director、Amazon、KVM (RHEV)、SCVMM、Hyper-V、および XenServer です。vSphere の予約における FlexClone の有効化は、このリリースの API ではサポートされていません。
- 『vRealize Automation プログラミング ガイド』が更新され、vRealize Automation REST API を使用した一般的なタスクとシナリオの実行がより**重点的に扱われる**ようになりました。また、API サービスや API リファレンス ドキュメントの使用に関する概要情報も更新されています。

エンドポイントのサポートの強化

- vRealize Automation は、サブスクリプションとオンデマンド サービスでは vCloud Air に接続でき、vCloud Endpoint で構成される vCloud Director にはプロキシから接続できます。
- Xen Desktop 7.0 をサポートします。
- OpenStack Havana をサポートします。

Advanced Service Designer の強化

- Advanced Service Designer のコンテンツのインポートおよびエクスポートのサポート。
- リソース アクションに関する複雑でインタラクティブなフォームのサポート。
- 外部システムからのデータによるフォーム コントロールの指定。

Application Services の強化

- サービス カタログにおいて公開済みアプリケーションのカスタム プロパティを編集する機能。

vRealize Orchestrator の強化

- **Switch case**
switch case アクティビティは、自動ワークフロー内で複雑な条件操作および分岐操作を処理します。switch case アクティビティでは、さまざまな条件で実行されるさまざまなコードをワークフロー開発者が指定できるようにすることで、決定要素と同様にワークフローの実行を制御します。switch ステートメントでは、変数が値のリストに対して等しいかどうかテストされます。case ステートメントが変数の値と一致すると、特定のワークフロー分岐が処理されます。

。グローバル エラー処理

従来のアクティビティベースのエラー処理に加えて、vRealize Orchestrator 6.0 では、グローバル エラー処理メカニズムが導入されています。これにより、ワークフロー開発者は、グローバル ワークフロー レベルで有効なデフォルト エラー パスを選択できます。デフォルト エラー処理アクティビティ ダイアグラムでは、ワークフローが失敗した場合のロールバック アクションをカスタム定義することもできます。

その他の機能強化

- 。ホーム ページに イベントのカレンダー を表示します。
- 。再構成操作のために日付と時間をスケジュールします。
- 。リースを変更します。有効期限を無期限またはなしに設定できます。
- 。構成可能な電子メール テンプレートをサポートします。
- 。承認プロセス時のマシン プロパティの編集をサポートします。
- 。ビジネス グループによるカタログ アイテムのフィルタリングをサポートします。
- 。パフォーマンスが改善されました。

ブランディングの変更

- 。vCloud Automation Center は、vRealize Automation にブランド変更されました。ユーザー インターフェイスとサービス名のみが変更されています。vcac が含まれるディレクトリ名とプログラム名は変更されていません。
- 。ブランディングがカラー、タブ、グラデーションに関する VMware の標準に一致するよう変更されました。引き続き製品ロゴをヘッダーに設定することができます。このヘッダーは高さ 50 ピクセルで、HSV 空間において指定カラーよりも 40% 暗いグラデーションとなります。指定したテキスト カラーが、セカンダリ タブ、下部テキスト、およびグローバル ナビゲータを含むページ全体で使用されるようになりました。たとえば、ほとんど白などの非常に明るいテーマの場合、アクティブなタブと区別するために、タブの背景は #DDD になります。そうでない場合は、指定した色が使用されます。下部のカラーを変更することはできません。

システム要件とインストール

サポート対象のホスト オペレーティング システム、データベース、および Web サーバについては、[vRealize Automation のサポート マトリックス](#) (英語) を参照してください。

その他の前提条件およびインストール手順については、VMware vRealize Automation 6.2 ドキュメント センターの「[vRealize Automation Installation and Configuration](#)」を参照してください。

ドキュメント

vRealize Automation のドキュメント セットには、バージョン 6.2 で導入されたすべての新しい機能をサポートする更新情報が含まれています。その中には、vRealize Automation を分散構成で展開するインストール プロセスの大幅な改善内容が記載されています。VMware vRealize Automation 6.2 ドキュメント センターの『[Distributed Deployment Checklist](#)』を参照してください。

[VMware vRealize Automation 6.2 ドキュメント](#) Web ページで、すべてのドキュメントをご確認いただけます。

解決した問題

解決した問題には、次のトピックが含まれます。

- [Advance Service Designer](#)
- [構成とプロビジョニング](#)
- [ネットワーク](#)

Advanced Service Designer

- **EXTERNAL_REFERENCE_ID プロパティへのクエリを実行するリソース マッピング ワークフローに基づいている場合、Hyper-V、SCVMM、および XenServer 仮想マシンのリソース アクションが失敗することがある**

EXTERNAL_REFERENCE_ID プロパティへのクエリを実行するリソース マッピング ワークフローに基づいて Hyper-V、SCVMM、または XenServer 仮想マシンのリソース マッピングを作成する場合、リソース アクションによってワークフローが実行されると、ワークフローに渡される **Properties** オブジェクトに EXTERNAL_REFERENCE_ID プロパティが設定されていないため、失敗します。

この問題は解決しました。

- **vRealize Automation 6.2 用の vRealize Orchestrator のプラグインを使用しても、vSphere API で直接検索しても、vSphere または vCloud Director 仮想マシンを一意的識別子で見つけることができない**

Workflow Runner ヘルパー ワークフローで VC: VirtualMachine インベントリ オブジェクトの検索が失敗することがあります。結果として、Workflow Runner ワークフローによって呼び出されたカスタム ワークフローが次のエラーで失敗する場合があります。

TypeError: プロパティ「datastore」を null から読み取れません。VMUniqueID 仮想マシンのエンティティ プロパティは BiosUUID から InstanceUUID に変更されます。

この問題は解決しました。

- **検出された循環依存関係が公開されているカタログ アイテムを申請する場合、Advanced Service Designer を使用して送信フォーム フィールドを更新できない**
vRealize Orchestrator ワークフローのすべての入力パラメータに OGNL 依存関係または

検証がある場合、このワークフローを使用してサービス ブループリントを作成および公開すると、利用者がカタログ アイテムを申請したときに、検出された循環依存関係のため、フォーム デザイナは送信フォーム フィールドを更新しません。たとえば、2つの入力パラメータがあり、各フィールドの値が他のフィールドの値に依存している状態を循環依存関係といいます。

この問題は解決しました。

構成とプロビジョニング

- **XenDesktop マシンの登録は、2.5 分以内に完了しないとタイムアウトになる**
XenDesktopFunctions スクリプトの \$regTries の値を増やす必要があります。

この問題は解決しました。

- **vRealize Automation 6.2 にアップグレードする前にアクティブだった承認が、アップグレード後に表示されない**
[受信箱] > [承認] に移動すると、デフォルトのフィルタは [アクティブ] に設定されていますが、アクティブな承認は一切表示されません。[すべて] 以外のステータスでフィルタ処理すると、6.2 にアップグレードする前までアクティブだった承認が表示されなくなります。

この問題は解決しました。

- **有効期限が過ぎても、マシンの状態がパワーオフまたは期限切れに変わらない**
マルチマシンとそのコンポーネントは、有効期限が過ぎると削除されます。

この問題は解決しました。

ネットワーク

- **vRealize Automation と VMware NSX を統合する際にさまざまな問題が発生する**
vRealize Automation と VMware NSX の統合に関する問題は解決されました。
- **vCloud Networking and Security インベントリの同期に失敗し、エラー メッセージが表示される**
VMware NSX ユーザー インターフェイスから、vRealize Automation 予約、マルチマシン ブループリント、またはマルチマシン インスタンスに割り当てられたトランスポート ゾーンを削除した場合、vCloud Networking and Security インベントリの同期に失敗し、エラー メッセージが表示されます。エラー メッセージの詳細は、トランスポート ゾーンを使用しているエンティティによって異なります。

この問題は解決しました。

- **カスタム プロパティが設定された既存の VMware vRealize Orchestrator または VMware vSphere エンドポイントを名前変更、編集、または表示すると、vRealize Automation によってデータベースから非表示のカスタム プロパティが削除される**
エンドポイントに非表示のカスタム プロパティが設定されていないと、ユーザーは vCloud Networking and Security plug-in ワークフローを実行できません。

この問題は解決しました。

既知の問題

既知の問題には次のトピックが含まれます。

- [インストールとアップグレード](#)
- [移行](#)
- [国際化](#)
- [ネットワーク](#)
- [Application Services](#)
- [Advanced Service Designer](#)
- [構成とプロビジョニング](#)

既知の問題で以前記載されていなかったものには、* 記号が付加されています。2015 年 1 月 16 日に、「構成とプロビジョニング」セクションの最後に新しい問題が追加されました。

インストールとアップグレード

- **IaaS カスタム インストール オプションを使用した Manager Service コンポーネントのインストールに失敗する***
データベース、Web サイトおよび Model Manager Data コンポーネントがすでにインストールされているマシンに Manager Service コンポーネントをインストールすることはできません。Manager Service コンポーネントをインストールしようとするすると失敗し、仮想アプリケーション vcac は存在します というエラー メッセージが表示されます。
- **ノードと管理コンソール間のネットワーク接続が遅いためにログが最終バンドルに含まれない***
タイムアウトを超過すると、ログがアップロードされず、最終バンドルに含まれません。現在は、ノードでコマンドの実行が開始されてから 30 分後にタイムアウトするように固定されています。この問題は、ノードと管理コンソール間のネットワーク接続が遅い場合に発生する可能性があります。
- **デフォルト以外の SQL ポートを使用すると前提条件チェッカーで設定が検出されない***
カスタム インストールを実行し、デフォルト以外のインスタンスとポートを使用して、SQL のデータベース ノードを選択すると、Microsoft 分散トランザクション コーディネータ (MSDTC) が正しく構成されていて、MSDTC サービスが実行されていて

も、前提条件チェッカーで設定が検出されません。

回避策: MSDTC が実行されていることを手動で検証し、前提条件チェッカーで [バイパス] をクリックしてインストールを続行します。

- **6.1 から 6.2 にアップグレードすると、Identity 仮想アプライアンスのログイン ページに VMware vCloud Automation Center が表示される***

VMware vCloud Automation Center を 6.1.x から vRealize Automation 6.2 にアップグレードすると、Identity 仮想アプライアンスのログイン ページに VMware vRealize Automation ではなく、VMware vCloud Automation Center がブランド名として表示されます。

回避策: 管理コンソールの [SSO] タブに移動し、[設定の保存] を選択して、Identity 仮想アプライアンスに再登録します。新しいブランド名が表示されます。

- **Identity Appliance 管理コンソールのスプリット DNS 構成で警告が表示される***

スプリット DNS 構成で Active Directory ドメインに参加することを選択している場合、Identity Appliance 管理コンソールに警告が表示されます。この警告メッセージは無視してかまいません。

- **PowerShell スクリプトが見つからないため、HP Server Automation Software の統合スクリプトが機能しない***

PowerShell スクリプトが見つからないため、HP Server Automation Software マシンの PXE 作成およびソフトウェア インストールのサポートが機能しません。

- **停止したマシンでアーカイブ ログが見つからない***

一部のマシンでアーカイブ ログが見つからない場合、マシンが停止状態かアクセス不能な状態です。

- **タブが断続的に不正な名前で表示される***

高可用性環境を vCloud Automation Center 6.0.x または 6.1 から vRealize Automation 6.2 にアップデートした後に、タブが断続的に不正な名前で表示されることがあります。

回避策: すべての vRealize Automation 仮想アプライアンスを再起動します。

- **インストール ウィザードを使用して vRealize Automation データベースをカスタム ディレクトリにインストールすることができない**

分散 (カスタム) インストールで、インストーラはデフォルト データベースとログ ディレクトリに対する変更を無視します。データベースとログは、デフォルトのディレクトリに作成されます。

回避策: データベースをデフォルト以外の場所にインストールするには、vRealize

Automation をインストールする前に DBinstall スクリプトを使用してデータベースをインストールします。

◦ **IaaS Web と Model Management のインストール中に、IIS の問題が原因で IaaS 認証に失敗する**

前提条件チェッカーの実行中に、「認証が有効になっていないため、IIS 認証に失敗した」という内容のメッセージが表示されますが、IIS 認証チェック ボックスはオンになっています。

回避策:

1. **[Windows 認証]** チェック ボックスをオフにします。
2. **保存** をクリックします。
3. **[Windows 認証]** チェック ボックスをオンにします。
4. **保存** をクリックします。
5. 前提条件チェッカーを再実行します。

◦ **共通名に大文字が含まれていると、Single Sign-On 証明書の検証に失敗する**

Single Sign-On アプライアンスに証明書を割り当てると、すべての文字列が小文字に変換されます。検証プロセスでは大文字と小文字が区別されるため、プロセスが失敗します。証明書名に大文字が含まれていても、検証プロセスで検索されるのはすべて小文字の名前であるためです。

回避策: [vRealize Automation Appliance] > [vRA 設定] > [SSO] で SSO ホスト アドレスを指定する際、SSO アプライアンスへ証明書を割り当てる場合と同様に、大文字小文字を区別してアドレスを入力します。

◦ **不正なホスト名が指定されると、インストールに失敗する**

次のようなエラーが表示され、インストールに失敗します。

情報: 2014-06-17 10 42 32 059 AM : System.AggregateException: One or more errors occurred.---> System.Net.Http.HttpRequestException: An error occurred while sending the request.---> System.Net.WebException: The remote name could not be resolved: 'po-va-rtq8c.sqa.local'Cause: 原因: [vCAC 設定] > [ホストの設定] の [VCAC HostName] フィールドに不正な名前が入力されると、問題が発生します。

回避策:

1. 仮想アプライアンス構成ファイル /etc/sysconfig/network/dhcp を編集して適切なホスト名を含めます。
2. 仮想アプライアンスを再起動します。
3. 仮想アプライアンス管理コンソールにログインします。
4. **[vRA 設定]** タブを開き、**[ホストの設定]** をクリックします。
5. **[ホスト名]** テキスト ボックスに正しい名前を入力します。

6. **[設定の保存]** をクリックします。

注: **[ホスト名の解決]** をクリックしないでください。

7. 仮想アプライアンスの構成を完了し、インストールを続行します。

移行

- **vRealize Automation 5.2.x から vApp を移行すると、vApp コンポーネントと vApp コンテナで表示される削除日が異なる***

vRealize Automation 5.2x バージョンから移行した vApp に、コンポーネントとコンテナ間で一致しない削除日が表示されます。コンポーネントには有効期限と同じ日が削除日として表示されますが、コンテナには正しい情報が表示されます。vRealize Automation ではコンテナ情報を基に vApp リースが管理されるため、コンポーネントが有効期限日より前に削除されることはありません。

- **移行後、[イベントのカレンダー] ポートレットに正しい作成日が表示されない***
移行後、[イベントのカレンダー] ポートレットで、移行したすべてのアイテムの移行日が作成日として表示されます。この問題は、実際の日付または正しい日付に関わらず発生します。

- **移行前の確認で誤って、「ターゲット システムにエージェントがありません」という内容が報告される**

移行前には、ターゲット システム内にソース システムのエージェント名が存在することを検証する確認が実行され、不一致が検出された場合にはレポートにメッセージが生成されます。移行前レポートには、一致するエージェントがターゲット システムに存在する場合でも、「ターゲット システムに一致するエージェントが見つかりませんでした。ターゲット システムに一致する名前のエージェントをインストールします。」という内容のメッセージが含まれる場合があります。

ターゲット システムに一致するエージェントが存在しても、エージェントにエンドポイントが構成されていない場合は、メッセージが誤って生成されます。

回避策: 移行前レポートにメッセージが表示され、一致するエージェントがターゲット システムに存在しない場合には、ターゲット システムにエージェントのエンドポイントを構成してから、移行を再実行します。あるいは、メッセージを無視して、移行の完了後、エンドポイントを構成します。

国際化

- **[アイテム] タブの仮想マシン名に ASCII 以外の文字が使用されていると、スナップショットを作成できない***

[アイテム] タブの仮想マシン名に ASCII 以外の文字が使用されていると、仮想マシンのスナップショットを作成できません。

回避策: 仮想マシンの名前を変更し、英文字を使用してスナップショットを作成します。

- **Unicode 文字を含むゲスト エージェント カスタム スクリプトが、無限ループのままとなる**

スクリプト名に Unicode 文字を含むゲスト エージェントがあるカスタム スクリプトを使用する場合、仮想マシンはプロビジョニングされず、リクエストは無限ループのままとなります。

回避策: スクリプト名に Unicode 文字を使用しないでください。

ネットワーク

- **VMware NSX タスクによるマルチマシンのブループリントの同時デプロイが進行中の状態のままになる**

回避策: この既知の問題を解決するには、[KB 2128908](#) を参照してください。

- **複数の VDR ルーティング ネットワークでロード バランシングが有効になっている場合、同じ NSX Edge が使用される**

マルチマシン ブループリントにおいて複数の VDR ルーティング ネットワークでロード バランシングが有効になっている場合に、1 つの NSX Edge が Edge のアップリンク側の両方のネットワークに接続されます。この状況では、1 台以上のロード バランサ仮想サーバがアクセス不能になることがあります。

- **ルーティング ネットワーク プロファイルの IP 範囲は、IP アドレスが使用されていなくても、割り当て済みとして表示される**

マルチマシン ブループリントにルーティングされた外部ネットワーク プロファイルが含まれ、コンポーネント ネットワーク アダプタへの割り当てではない場合、マシンは正常にプロビジョニングされますが、実際には使用されていないルーティング ネットワーク プロファイルからの IP アドレス範囲が割り当てられます。

- **vCenter Server でネットワークを再構成した後に、vRealize Automation の仮想マルチマシン コンポーネントに対する誤ったネットワーク設定が表示される**

vRealize Automation で仮想マルチマシン コンポーネントの vCloud Networking and Security (NSX) ネットワークを再構成することはできません。代わりに、vSphere Client を使用して vCenter Server のネットワークを再構成する必要があります。仮想マルチマシン コンポーネントの一部のネットワーク設定が vRealize Automation に正しく表示されなくなることに注意してください。

回避策: vCenter Server でネットワークを更新し、適切なネットワーク設定をリストアします。

Application Services

- **AWS eu-central-1 リージョンを Application Services 6.2 で使用できない***

AWS を eu-central-1 リージョンで展開しようとする、展開が失敗し、「予期しないエラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。」というエラーメッセージが表示されます。

- **グローバル プロキシ設定を構成したかどうかにかかわらず、展開環境のプロキシ設定が使用されない***

darwin_global.conf ファイルでプロキシ設定をグローバル構成しているかどうかにかかわらず、展開環境レベルでプロキシ設定を構成しても、そのプロキシ設定が展開時に適用されません。

- **vRealize Automation 6.2 バージョンを使用して Application Director から vRealize Automation のカタログにブループリントを公開することができない**

vRealize Automation を 6.0.1.x または 6.1 から 6.2 にアップグレードし、vRealize Automation カタログにブループリントを公開しようとする、[予期しないエラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。] というエラーメッセージが表示されます。この問題は、vRealize Automation 6.2 バージョンに新規登録された Application Director のインスタンスでは発生しません。

回避策： Application Director 6.0.1.x または 6.1 を vRealize Automation 6.2 から登録解除して、もう一度 Application Director を vRealize Automation に登録します。

- **テナント間の物理サービスおよび Application Services を削除すると、ファブリック管理者のアクセスが拒否される**

テナント間の物理サービスおよび Application Services を削除すると、ファブリック管理者はアクセス拒否メッセージを受け取ります。

回避策： マシンが存在するテナントのファブリック グループのファブリック管理者としてログインします。

- **vRealize Automation では、同一システムにあり同じ名前を持つ複数のホストがサポートされない**

データ収集は、ホスト名に基づいてホストを更新します。2つのエンドポイントに同じ名前のホストがあると、エンドポイントはホストの所有権に関して競合します。

回避策： すべてのホスト名が一意になっていることを確認します。

- **Application Service で、ブループリント キャンバス内のディスクに説明を追加できない**

Windows Internet Explorer 11 を使用する場合、ブループリント キャンバスの [ディスク] タブで、ディスクに説明を追加できません。

回避策：ブループリント キャンバス内のディスクに説明を追加するには、Chrome または Firefox を使用する必要があります。

- **Application Director 6.0.1.x または 6.1 で展開された Puppet サービスを使用したノードを更新できない**

Application Services 6.2 では、Application Director 6.0.1.x または 6.1 で展開された Puppet サービスを使用するノードの更新をサポートしていません。Application Services 6.2 では、特定のサービスを更新できる Puppet ノード マニフェストを作成します。

Application Director 6.0.1.x または 6.1 で生成されたノード マニフェスト ファイルと互換性がありません。

Advanced Service Designer

- **vRealize Orchestrator プレゼンテーションのバインド後に Advanced Service Designer のフィールド値の制約が評価されない***

申請フォームを設計する際に、フィールドの制約にフォームの別のフィールドへのバインドが使用されており、その別のフィールドの値が vRealize Orchestrator プレゼンテーションで定義されたバインド式に基づいて計算されていると、制約が正しく適用されません。フィールド間のバインドは、vRealize Orchestrator プレゼンテーションまたは Advanced Service Designer フォームのいずれかで定義されている必要があります。

- **誤ったフィールド チェックが Advanced Service Designer で発生する場合がある***

作成モードでエンドポイント タイプを変更すると、誤ったフィールド チェックが発生することがあります。

回避策：次の手順を実行してください。

1. エンドポイント作成ウィザードが開いている場合は、これを閉じます。
2. 新しいエンドポイント作成ウィザードを開始します。
3. ウィザードの最初のページで正しいプラグインのタイプを選択します。
4. **[フォーム プレゼンテーション]** タブで、必要なデータを入力します。
5. 構成を保存します。

適正なフォームのコンディショナル制約が実行されます。

- **Advanced Service Designer フォームでは数値の最大値と文字列の最大長の条件が vRealize Orchestrator から入力されない**

サービス アーキテクトが Advanced Service Designer でブループリント フォームを作成し、最大値の条件が関連付けられている数値フィールドまたは最大長の条件が関連付けられている文字列フィールドを含む vRealize Orchestrator ワークフローをロードする場合、これらのフィールドに適用されている制限はブループリントの **[制約]** タブに表示されません。

回避策：サービス アーキテクトは、次のようにして制約を手動で再入力する必要があります。

1. 入力パラメータの [編集] オプションをクリックします。
2. [制約] タブをクリックします。
3. パラメータが数値の場合は最大値、パラメータが文字列の場合は最大長の制限を挿入します。

- **null を返す可能性のある定義済み回答アクションが string 配列型に入力されたワークフローを選択すると、Advanced Service Designer でサービス ブループリントまたはリソース アクションを作成できない**

Advanced Service Designer でサービス ブループリントまたはリソース アクションを作成しているときに、vRealize Orchestrator ワークフローを選択し、そのワークフローのプレゼンテーション内で、null を返す可能性のあるスクリプト アクションを呼び出す定義済み回答プロパティの入力パラメータが string 配列型に指定されている場合、[次へ] をクリックするとプロセスが失敗して、エラー メッセージ「内部エラー。内部エラーが発生しました。」が表示されます。問題が解決しない場合は、システム管理者にお問い合わせください。その際、次の参照番号を使用してください：...

回避策： vRealize Orchestrator クライアントの [デザイン] パースペクティブで、null を空の配列に置き換えて、定義済みの回答を編集します。たとえば、次のアクション スクリプト コードがあるとして。

```
if (someCondition) {  
  
    return ["a", "b", "c"];  
  
} else {  
  
    return null;  
  
}
```

コードを次のように変更する必要があります。

```
if (someCondition) {  
  
    return ["a", "b", "c"];  
  
} else {  
  
    return [];  
  
}
```

構成とプロビジョニング

- **vSphere マシンでは VMware Remote Console (VMRC) が無効になっている***
vSphere マシンの [VMRC を使用して接続] アクションは、セキュリティ上の脆弱性の

ために削除されました。vCloud Director でプロビジョニングされたマシンのリモート コンソール アクセスは影響を受けません。この問題の詳細については、[VMSA-2014-0013](#) を参照してください。

- **再構成の承認リクエストのコストが正しく表示されない***

既存のマシンのコンピュータ リソースのコストを変更して、より多くのメモリ、CPU、およびストレージで再構成しても、再構成の承認申請のコストが正しく表示されません。その代わりに、古い値が表示されます。

- **マルチマシン ブループリント レベルで構成された**

VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names プロパティを使用して、定義済みのロード バランサでマルチマシン サービスをプロビジョニングすることはできない

マルチマシン ブループリントで VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names プロパティを指定して、マルチマシン コンポーネントを定義済みのロード バランサに追加しても、マルチマシン サービスのプロビジョニングが成功した直後に破棄が始まり、次のエラー メッセージも表示されます：1 つ以上のネットワークおよびセキュリティ設定の構成に失敗しました。Error: 起動するターゲットで例外が発生しました というエラー メッセージが表示されます。

回避策：スタンドアロン仮想マシンのブループリント レベルでカスタム プロパティ VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names を定義します。

- **再プロビジョニング アクションで最初のカスタム プロパティのみが適用される***

マシンをプロビジョニングした後で再プロビジョニングすると、再プロビジョニング タスク中に適用されたカスタム プロパティは更新されず、最初のカスタム プロパティのみが適用されます。

- **互換モードでは新規ブループリントおよび新規予約のページにタブが表示されない***

Internet Explorer 11 で互換モードを有効にして、**[インターネット サイトを互換表示で表示する]** オプションを無効にし、vRealize Automation にログインすると、新規ブループリント ページおよび新規予約ページのタブが表示されません。

- **[メトリック プロバイダの構成] タブにエラーが表示される***

vRealize Automation メトリック プロバイダが最初から選択されている **[メトリック プロバイダの構成]** タブに移動し、**[vRealize Operations のエンドポイント]** を選択し、vRealize Automation メトリック プロバイダを選択し直し、**[保存]** をクリックすると、「強調表示されているエラーを修正してください」という内容のエラー メッセージが表示されます。

回避策：ブラウザを更新するか、vRealize Automation ユーザー インターフェイスからログアウトし、ログインし直します。

- **承認ポリシーが [承認] タブに表示されない***

承認ポリシーがサービスに割り当てられている場合、承認メッセージが表示されませ

ん。

- **vRealize Operations Manager の健全性バッジが [アイテム] タブに表示されない***
再利用マシンのメトリック プロバイダ構成で vRealize Operations Manager を構成すると、健全性バッジは再利用マシンの表で使用できますが、[アイテム] タブには表示されません。

回避策：手動でテナント管理者ロールをユーザーに割り当てます。

- **多くのマルチマシンが展開されている場合、AppServiceState ワークフローで Model Manager Web サービスおよび DEM ワーカーの CPU が過剰に使用される***

AppServiceState ワークフローは、5 分ごとに実行されるようにスケジュールされています。システムがある程度の規模になると、前の AppServiceState ワークフローが完了する前に次の AppServiceState ワークフローの実行がスケジュールされます。そのため、Model Manager Web サービスの CPU 使用率が常に高い状態になることがあります。

回避策：異なる間隔で実行されるように `DynamicOps.RepositoryModel.WorkflowSchedules` テーブル内で AppServiceState ワークフローのスケジュールを変更します。たとえば、間隔を 5 分から 60 分に変更して、1 時間ごとにワークフローが実行されるようにします。

- **カスタマイズ中のエラーが原因で、vApp がプロビジョニングに失敗する場合がある***
vApp テンプレートの仮想マシンのハードウェア設定を変更してからテンプレートを更新すると、エンドポイント データ収集を実行しない限り、仮想マシンをプロビジョニングすることができなくなります。

- **ユーザーに新しいロールが付与された後、タブが更新されない***

ユーザーに新しいロールを付与した後、ログアウトしてから再度ログインし直しても、そのロールの特定のタブが少なくとも 5 分から 10 分の間表示されないことがあります。

- **以前追加したポートレットが [ホーム] タブで完全にレンダリングされない場合がある***
Internet Explorer 8 または 9 を使用して vRealize Automation にログインし、[ホーム] タブで追加のポートレットを追加すると、vRealize Automation にすでに表示されている以前のポートレットが完全にはレンダリングされないことがあります。

回避策：ブラウザを更新します。

- **新しいオペレーティング システムのバージョンを使用して事前定義済みの Puppet ベースの Test App 1.0.0 または Puppet ベースの Test App 1.0.1 を展開するとエラーが発生する***

事前定義済みの Puppet ベースの Test App 1.0.0 または Puppet ベースの Test App 1.0.1 のブループリントで新しいオペレーティング システムのバージョンを作成および使用

し、アプリケーションを展開する場合、「予期しないエラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。」という内容のエラーメッセージが表示され、展開に失敗します。

回避策: 新しいオペレーティング システムのバージョンではなく、ブループリントで事前定義済みのオペレーティング システムのバージョンを再使用します。

- **誤った UPN 形式の認証情報を使用して IaaS 管理者としてログインを試みると説明もなく失敗する**

ユーザー名に *@yourdomain* の部分を含めない UPN 認証情報を使用して IaaS 管理者として vRealize Automation にログインしようとする、即座に SSO からログアウトされ、説明なくログイン ページにリダイレクトされます。

回避策: 入力する UPN は、<yourname>.admin@<yourdomain> の形式に準拠する必要があります。たとえば、ユーザー名として jsmith.admin@sqa.local を使用してログインし、Active Directory の UPN に jsmith.admin のみが設定されていると、ログインは失敗します。この問題を修正するには、userPrincipalName に必要とされている @<yourdomain> コンテンツを含めてログインを再試行します。この例では、UPN 名を jsmith.admin@sqa.local にする必要があります。この情報は log/vcac フォルダのログ ファイルに提供されています。

- **電子メール テンプレートのカスタマイズの動作が変更され、外部テンプレートが使用できない**

vRealize Automation 6.0 以降の場合、以前のバージョンの電子メール テンプレート機能を使用してカスタマイズできるのは、IaaS コンポーネントによって生成された通知のみです。

回避策: 次の XSLT テンプレートを使用できます。

- ArchivePeriodExpired
- EpiRegister
- EpiUnregister
- LeaseAboutToExpire
- LeaseExpired
- LeaseExpiredPowerOff
- ManagerLeaseAboutToExpire
- ManagerLeaseExpired
- ManagerReclamationExpiredLeaseModified
- ManagerReclamationForcedLeaseModified
- ReclamationExpiredLeaseModified
- ReclamationForcedLeaseModified
- VdiRegister
- VdiUnregister

電子メール テンプレートは、サーバのインストール ディレクトリの \Templates ディレクトリ、通常は %SystemDrive%\Program Files x86\VMware\VCAC\Server にあります。

\Templates ディレクトリには XSLT テンプレートもありますが、すでにサポートされて

いないので変更できません。通知の構成の詳細については、[VMware vRealize Automation のドキュメント](#)の「通知の構成」を参照してください。

- **プロビジョニングされたマシンのアクションが終了する前に完了のマークが付けられる**

[再プロビジョニング]、[パワーオフ]などのアクションは、操作が処理中であっても[申請]ページに[完了]と表示されることがあります。マシンの実際のステータスは、[アイテム]ページに反映されます。

- **ゲスト エージェント ファイル SCCMPackageDefinitionFile.sms を更新する必要がある**
ゲスト エージェント ファイル SCCMPackageDefinitionFile.sms には、古い名前と公開者情報があります。これは、動作には影響しません。
- **リース日を [承認ポリシー] 値の範囲外に変更できる**
リースの変更 リソース アクションを使用すると、リース日をブループリントで指定されている最大リース範囲以降の日付に変更できます。
- **削除したカスタム グループが資格から削除されない**
資格にリンクされているカスタム グループが削除された場合、カスタム グループは資格から削除されません。

回避策：カスタム グループを削除して、資格から削除するには、次の手順を実行します。

1. 資格からカスタム グループを削除します。
2. カスタム グループを削除します。

- **ビジネス グループ ロールをカスタム グループから削除しても、資格を破棄できない**
資格にリンクされたカスタム グループをビジネス グループ ロールから削除した場合、カスタム グループは資格から削除されません。

回避策：ビジネス グループ ロールをカスタム グループから削除して、資格から削除するには、次の手順を実行します。

1. 資格からカスタム グループを削除します。
2. ビジネス グループ ロールからカスタム グループを削除します。

- **Hyper-V エンドポイントが、誤って Infrastructure Organizer で管理対象外のマシンとして表示される**

Hyper-V エンドポイントでプロビジョニングが失敗すると、vRealize Automation はそのマシンを削除されたマシンとしてレポートしますが、マシンはエンドポイントのままになり、Infrastructure Organizer に管理対象外のマシンとして表示されます。

- **Citrix XenDesktop/Provisioning Service マシンをプロビジョニングした場合、マシンがプロビジョニングされていない状態のままになる**

この問題は VMware VDI エージェントおよび Citrix、BMC、Opware、VBScriptsagent などのすべてのバージョンの VMware EPI エージェントに発生する場合があります。この問題はまた、マスター ワークフロー マシン プロビジョニング サイクル全体にわたってさまざまな時点で発生する場合があります。

すべてのサードパーティのサーバ要求を処理できるように、空白のままにせずに、特定のサーバ名を使用するようにエージェントがインストールされた可能性があります。特定のサーバ名が入力されている場合、このエージェントはこのサーバ名に正確に一致するサーバの要求のみを処理できます。vRealize Automation はカスタム プロパティ EPI.Server.Name または VDI.Server.Name の値を使用して、一致するエージェントを特定し、要求を処理します。一致するエージェントが見つからない場合、マシンはプロビジョニング中に一致するエージェントが見つかるまで、EPIRegister/プロビジョニング済みマシン状態、またはプロビジョニング解除/無効マシン状態のままとなります。

回避策: EPI.Server.Name/VDI.Server.Name で入力されたサーバ値と正確に一致する新しい EPI/VDI エージェントをインストールするか、サーバ名を空白のままにします。または、次の手順に従って、現在のエージェントのエージェント構成ファイルを更新して、サーバ値を変更できます。

1. 通常、C:\Program Files (x86)\VMware\VCAC\Agents\<agentName>\VRMAgent.exe.config に保存されているエージェントの構成ファイルをバックアップします。
2. 管理者としてテキスト エディタを開きます。
3. 任意のエージェントのタイプに対する変更を行うには、SERVER_NAME_VALUE を使用しているサーバ名で置き換えるか、空白のままにします。

```
epiIntegrationConfiguration epiType="CitrixProvisioning"  
server="SERVER_NAME_VALUE"  
vdiIntegrationConfiguration vdiType="XenDesktop" server=""X
```
4. 変更内容を保存します。
5. エージェント サービスを再起動します。
 - a. **スタート > 管理ツール > サービス** をクリックします。
 - b. 目的の VMware vRealize Automation エージェント サービスを右クリックして、**[再起動]** をクリックします。
 - c. エージェントが正常に再起動した後、ジョブは想定どおりに続行されます。

- **管理者が数百ものグループのメンバーである場合、[インフラストラクチャ] タブを開こうとすると失敗する* 2015 年 1 月 16 日**

Active Directory と SSO を使用する場合、多くのグループのメンバーである IaaS 管理者

は [インフラストラクチャ] タブを**表示**できない場合があります。次のいずれかのエラーが発生することがあります。

- **不正なリクエスト** - リクエストが長すぎます - HTTP エラー 400. リクエスト ヘッダのサイズが長すぎます。
- **サービスにアクセスできません** - 指定アドレスで要求されたサービスに接続できません。詳細はシステム管理者にお問い合わせください。参照エラー REPO404。

回避策: 次の例のようにトークンの制限を引き上げます。

1. Kerberos トークンの**最大サイズ**を決定して設定します。正しい Kerberos トークンの**最大サイズ**を決定するには、以下のガイドラインに従います。

$\text{Kerberos MaxTokenSize} = 1200 + 40d + 8s$ (バイト)

この式は次の値を使用します。

- **d** -- ユーザーがメンバーになっているドメインのローカル グループの数、ユーザーがメンバーになっているユーザーのアカウント ドメインの**外部**にあるユニバーサル グループの数、およびセキュリティ ID (SID) 履歴に**表示**されるグループの数の合計。
- **s** -- ユーザーがメンバーになっているセキュリティ グローバル グループの数およびユーザーがメンバーになっているユーザーのアカウント ドメイン**内**のユニバーサル グループの数の合計。
- **1200** -- チケット オーバーヘッドの**推定**される**値**。この**値**は、DNS ドメイン名の長さやクライアント名などの**要素**によって**変化**します。

2. レジストリ エントリの**修正**が必要かを判断します。上の式を使用して計算するトークン サイズが 12,000 バイト (デフォルト サイズ) 未満の場合、ドメイン クライアントの MaxTokenSize レジストリの**値**を修正する必要はありません。**値**が 12,000 バイト以上の場合は、MaxTokenSize レジストリの**値**を調整します

(<http://support.microsoft.com/kb/263693> を参照) 。 Kerberos の MaxTokenSize の**値**を**変更**する必要がある場合は、次のレジストリ エントリを修正します。

HKLM\System\CurrentControlSet\Control\Lsa\Kerberos\Parameters

MaxTokenSize、REG_DWORD、<値> (MaxTokenSize レジストリ エントリの**推奨値**は 10 進数の 65535 または 16 進数の FFFF です) 。

3. 次のガイドラインを使用して、**展開**するための正しい HTTP の**最大**リクエスト サイズを**決定**および**設定**します。ここで、*T* は上で**設定**した Kerberos の MaxTokenSize です。

$\text{MaxFieldLength} = (4/3 * T \text{ バイト}) + 200$

$\text{MaxRequestBytes} = (4/3 * T \text{ バイト}) + 200$

MaxFieldLength と MaxRequestBytes を計算された値に設定します。次の例では、許可される最大値に設定されています。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\HTTP\Parameters  
MaxFieldLength DWORD 65534  
MaxRequestBytes DWORD 16777216
```

ユーザーが多くのグループに属する場合の Kerberos 認証の問題に関する詳細については、次のサポートに関する記事を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/327825>
<http://support.microsoft.com/kb/263693>
<http://support.microsoft.com/kb/2020943>